

# 伝えよう つながろう 夢に向かって

NO.10 (2025.2.28)

## □第4回学校運営協議会 (2月26日)

2月23日に実施された「SDGs QUEST みらい甲子園 山陰エリア大会」ファイナリストとして出場し、「さんれいフーズ賞」を受賞した高等部3名が、「梅干しのすばらしさを世の中に広めよう～保存食から始めるSDGS～」を発表しました。



学校運営協議会委員からは、

「地元にあるものを使って食品ロスに目をつけ、その見方を地域のみなさんに伝える発表は素晴らしい。」

「自分たちで交渉して、失敗もする経験は良いことである。失敗は成功の元という言葉もある。企業とのコラボ(手話クッキー)も頑張してほしい。」

「梅干しの題材はユニーク。梅干しは日本に古くから伝わる食べ物だし、いろんな活用の仕方があると思う。」

そして、「探究学習の中で、3人が自分でどの部分を頑張ったか認識することは大切。そうすることで学びが深まる。担当を教えてほしい。」と質問があり、3人は、

『役割分担の認識がなく、ひとつひとつを3人で協力してやりました。』『この活動を始めたのが去年の10月ぐらいで忙しい時期でしたが、3人で協力して、自分の担当したところをやりました。最終的には、良い結果となってよかったという達成感があります。』『担当というより3人で一緒にやりました』と3人は協力してともに頑張ったと回答しました。

この発表をとおして、高等部の普段の活動を委員の皆様にも感じてもらうことができました。

## □意見交換～センター的機能～

本校の学校運営方針は「幼児生徒の学力向上」「地域の難聴児支援」「二つを支える専門性の向上」です。今回は岩本教諭が『浜田ろう学校におけるセンター的機能について』をテーマに現状と課題を伝えました。普段感じていることとして、

- ・「聞こえにくい」ことは周囲に理解されにくい。
  - ・難聴学級の子は、交流学級で自分らしく過ごせているか?
  - ・センター的機能の限界～関わりたくても関われない。
- を挙げ、『センター的機能、難聴児支援をより一層活用してもらうために何が必要か?』について意見交換をしました。学校運営協議会委員からは、

「医師(検診)、保健師、福祉、保育園、ろう学校などの関係者で情報共有できれば、早期の相談に繋がる」

「難聴児支援のためには、ろう学校における合同学習は有益であり、その場で情報交換できると良い」

「ろう学校のセンター的機能の取り組みを知ってもらう活動を地道にしていくと必ず浸透していく」

「ろう学校だけではなく、教育委員会、福祉、医療、療育がどう情報を共有していくかが課題であり、外部への発信に力を入れていく必要がある。」

等の意見が出されました。

